本省願伺届
諸校掛合答
明治十年中
五十年史料
206

明治十年一月ヨリ十二月ニ至ル

本省願伺届

諸校掛合答

二百四十六

東京大學醫學部

校長　　庶務課
市川貫[illegible]

第五号

貴校生徒福島佳長入院薬餌料別紙之通

案

速ニ御回致有之度此段及御掛合候也

明治十年一月九日

東京醫学校

東京開成学校

御中

校長　　庶務課
　　　　市川寛繁

番外訓号

案

拙者儀医学事務御用トシテ昨年七月中
米国費府博覧会ヘ致出張留守中池田謙斎
ヘ代理為致置候処今般御用相済候ニ付代理致
解任候此段上申候也

明治十年一月十三日

東京医学校長
文部省四等出仕長與専斎

文部大輔代理
文部大丞九鬼隆一殿

校長
用度課
庶務課
市川寛繁

第拾二号

案

一金武拾五圓

右者山形縣病院雇医新潟縣平民長谷川
元良ヨリ當校機械購入トシテ献金致度旨申出候間
至急御取扱相成度上申致候也

明治十年一月十二日

東京医学校長
文部省四等出仕長與専斎

文部大輔田中不二麿殿

校長

庶務課　市川寛繁

第三拾八号　案

拙者儀今般大和國ヘ
行幸供奉被仰付候ニ付留守中長與専斎ヘ
代理為致候此段上申候也

明治十年一月廿三日

東京医学校長
池田謙斎

文部大輔田中不二麿殿

校長代理　　庶務課
　　　　　　小山惣吉

第四拾九号

案

貴校募集生徒体格撿査之節ニ付当校医員借用致度云々御依頼之趣致承知候就テハ来ル三十一日出張可為致ト存候此段及回答候也

明治十年十一月廿七日

東京医学校

東京師範学校
　御中

校長代理

庶務課
市川寛繁

第七拾五号

案

本年三月十五日ヨリ京都府下博覧会開場ニ付当校出品有無之儀再応御申越之趣致了承候右ハ取調候処可貸出物品無之候ニ付此段及御回答候也

明治十年二月十四日

東京医学校長

本省
学務課長 御中

校長代理

庶務課
市川寛繁

第八拾三号　案

客年八月中當校印刷之規則一覧表等
各院省使寮局ヘモ本省ヨリ配付可相成筈ニ付當
校ヨリ郵便ヲ以テ可差出旨申越之趣致了承即チ
左目録之通夫々差出申候條御落手有之度候也

明治十年二月

東京醫学校長

本省
学務課長　御中

通学生規則　[illegible]本部

製薬學通学生規則　[illegible]本部

通学生概則　同

校長代理　庶務課

第八拾八号　案

當校ニ於テ亜鉛板需用之儀有之候處遽ニ適當ノ良品無之治療上甚當リ困却致シ於其貴局御用之分一枚御譲與相成度此段及御依頼候也

明治十年二月廿三日

東京医学校長代理

長與専斎

電信局長

芳川顕正殿

追テ本議與否ニ付テハ代價御申越有之度
候也

校長代理

庶務課
市川寛繁

第八拾九号 案

學第三百四拾三号ヲ以テ新納克郎ローチエス
タル府立エッチ、プメロイ、ブルースタル氏ヨリノ請求ニ
拠リ當校中右文庫有之ニ付テ詳細ニ申進
此照會ノ趣致承知候右ハ洋文ヲ以テ可
相認筈ニ可有之ニ付右者何分人少ニテ時日ヲ
要シ意ニ不相叶候且右國字ヲ以テ不相叶
テハ如何ニ可有之哉此段一應及御問合候也

明治十年二月廿日

東京醫學校長

本省
学務課長 御中

校長代理
庶務課
市川寛繁

第百五号

案

学第百六拾六号ヲ以テ当校医学生規則并
同通学生之規則等右生徒心得ノ
為メ口上ヲ以テ一ト通リ申聞候処何分多人数ニテ規
則行届兼候ニ付別段印刷ノ上相渡シ候儀ニテ規
則等ト申儀ニモ無之ニ付別段規則ト致シ候
尤モ文字等ニ当所ト差添印刷之方ヨリ
訂正可致ト存候此段御回答申進候也

明治十年二月　日

東京医学校長

本省
學務課長　御中

八

校長代理　　庶務課

第百九十号　案

當校雇教授独逸人アールボルヒ氏ヨリ動植物学書編輯之儀ニ付上申致シ候処右ハ素ヨリ医学生徒ノ便益ヲ計ルモノニ付費用一切當校ヨリ辨給可致哉ニ候処御照会之趣致承知候右ハ医学生徒緊要ナルモノニハ相終共費用ニ至テハ何分當校ヨリ弁給之義難行届候此段御回答候也

明治十年十二月

東京医學校長

本省報告課長 御中

追テ本人ヘ其旨及御通達候也

報第九拾七号

当校雇教師独逸人アールブルグ氏ヨリ動植物学編輯之義ニ付別紙之通申出候処右ハ当今医学生徒ノ裨益ヲ計リ候モノニテ有之候得共当校ニ於テ同書出版致候若シ必需ニ候ハヽ編輯翻訳出板書ノ費用一切御弁給相成候様致度此段一応御意見之義相伺候ニ付別紙相添此段及御照会候也

明治十年二月廿七日

文部省報告課長 西村茂樹

東京医学校長代理 長与専斎

進テ此國巻ニ第本人出申書出來候ニ有之候
此旨也

近來當國ノ生徒ヨリ猶ホ植物学及動物学
普通ノ書物ヲ求ムル者モ亦多シ之ニ單ニ支那右種
類ノ書物数多出版アリシモ凡日本学生ノ
為ニ於テ著述セシモノ固ヨリ無シシーボルト及チユン
ベルク著動植物篇ノ如キアレ凡何レモ大部ノ書
ニテ殊ニ當時ニテデノ發見ニ係ルモノノミナレバ理学ニ
通曉セル専門学士ナラデハ難用又其他ノ小冊子
モ多クハ獨佛学生ノ為ニ著述セルモノニテ甚ダ不
日本ニテハ不適當ナリ在來ノ書物ノ中ニハ日本
ノ動植物ヲ記載スルモノ未ダ一部モ無之ニ付
○當國ノ生徒モ外國ノ動植物ヲ講究スル事十
分ナラズ其本邦ノ動植物ヨリ十分ニ学ブコト肝要ニ

被存候新植物ニ日本産無之者ニ坐候処
著爾来植物学ニ属スル物品数種採集致シ
猶歳月ヲ逐テ増加致候右要用ノ植物学書
無之故文部省ノ御都合ニヨリテハ御訳ニ上
植物学動物学薬剤植物薬剤動物ニ類ヲ
分チ日本人ニ適当スベキ教科書著述可仕右
成業ノ上ニテ日本語ニ反訳致来候テ特ニ御採
生徒ノ為メニ必用ナルノミナラズ日本全国ノ学者
ノ為ニ入用ニ可有之右ニ付貴下ニ於テ御同意
ナレバ右著述ニ着手致シ引続急度成業就御採
可仕儀尤右ニ付テハ毎分ノ月日御掛リ可申候
此補助モ容易ニ御同意可被成候半存候若シ
著述候ハヾ日本教育及学術ノ先導者ナル文部

長官閣下ニ懇願ニ於テ談判ヲ奉呈シ（書物ノ和解ニ緊要ヲ表スル為メ頁人ノ名ヲ記スルノ法）且頁画像ヲ挿刺致度存候頓首

月日　ナミ

レナポルド、カロリン、アカデミー社員
当時東京医学校教授
アールブルグ G. H. D. H.

文部省
御中

監事局
庶務課
市川寛繁

校長代理

第百拾三号
案

當校通學生概則ノ儀過般及御回答置候趣モ有之候
於テ更ニ尚今般別紙ノ通改正可致ト存候ニ付御意
見モ有之候ハヽ至急御添削相成度此段及御照會
候也

明治十年十二月五日

東京醫學校長

本省
學務課長
御中

校長代理

庶務課

市川寛繁

案

當校醫院病室規則等別紙之通制定印刷可致ト存候尤意見書モ有之候ニ付此際御参考ニ供シ度此段至急及御照会候也

明治十年十二月五日

東京医学校

本省

学務課長

御中

[illegible]

校長代理

庶務課
市川寛繁

第百弐拾号

案

此度本省文部大輔ヨリ依頼ニ付当校所蔵写真並標本
写生及生徒試験答書並図面可申出旨了承致
兼而御照会之別紙目録之通ニ差出申候試験答書
ノ儀理論ハ言辞ヲ聴キ実地ハ目撃致シ候ニ付別段
答書之無之候此段及御回答候也

明治十年十二月九日

東京医学校長

本省学務課長

御中

目録

一学校及病院写真　貮葉

一植物写生　拾貮葉

右之通ニ有之候也

校長代理　庶務課

市川寛繁

東京第三号　案

當校学校病院写真共貮葉相回申候也

明治十年三月九日

東京医学校

本省

御中

校長代理

庶務課
市川寛繁

第百廿四号

案

貴校教師館之内目今空館有之無之哉
此段及御問合候也

明治十年三月九日

東京医学校

東京開成学校
御中

校長代理　庶務課

市川[illegible]

第百九十六号　案

當校醫院病室規則別紙之通制定印刷致

度此段至急及伺候也

明治十年十二月十日

東京醫學校長代理

長與專齋

文部大輔田中不二麿殿

校長代理

庶務課
市川寛繁

第百二拾二号
案

本月六日太政官第布告第弐拾七号「各官庁ニ於テ外国人傭入并解約之度国籍姓名等ヲ外務省ニ通知スベシ」ト有之右之書類ヨリ直ニ通知致スヘキ儀ニ候哉又ハ本省ヨリ御通知有之候儀ニ候哉此段及御問合候也

明治十年三月十三日

東京医学校

本省学務課
御中

校長代理　庶務課
衆

本日昌平館集會之儀重掛り要用有之一同
出席難致候此段及御断候也

明治十年三月十九日

東京医学校

本省
庶中

校長代理

庶務課

奥藤小次郎

第百五拾七号　案

米国費府ニ出張中ノ紙小包弐箇當校ニ宛方
ニ依リ博覧会事務官ヨリ及依頼今般来着ニ付
右回送相成正ニ致落手候右ハ御手数之段
致謝旁如此候也

明治十年十二月廿六日

東京医学校

出浦力雄殿

東京大學

東京大学総合図書館

校長代理

製薬局

庶務課

市川寛繁

普五第八号

案

当植物場ニ於テ草木之花数種一週三回ツヽ入用ニ付貴所ニテ請取人可差出候条御渡與有之

此段及御依頼候也

明治十年三月廿六日

東京醫学校

礫川植物園

御中

校長代理　　庶務課

眞藤小次郎

第七拾号　案

醫院病室規則　弐拾壱部

右者兼テ御協議ニ相成居候當校醫院病室規則刻成ニ付御廻申候也

明治十年三月

東京医学校

本省

御中

監事局
庶務課

校長代理

明治八年[illegible]

案

當校通學生之儀是迄徴兵適齢之者有之
候處専門學修業之者ニ付徴兵令第三章
第五條ニ照シテ専門學生徒ノ證書ヲ附與シ免役
相成來候處右通學生之儀専門學トハ申
元來変則ニシテ普通ノ書ヲ讀ミ候者ハ入學
並許來候儀ニ付外學校免役ニ而未成生徒ト比
較致候得者其學力或ハ甲乙平等ヲ難保分モ
可有之且又免役ノ為メニ一時入學致候者出來候モ
難計旁徴兵令参考第二十條照應ニ未見ヘ候

師範学校ニ入リ脩業一期六ヶ月ノ課程ヲ卒リタル者
ニ比シ当校医学生ニ於モ第一期六ヶ月ヲ卒業シタル
者ナラデハ免役難相成筋ニ制定相成可然ト存候
此段相伺候也

明治十年四月

東京医学校長代理
長與専斎

文部大輔田中不二麿殿

校長代理
監事局
庶務課

第百八號ニ答フ

案

徴兵令第三章第五條ニ照ヘハ於文部ノ専門学
生徒ハ無論免役ニ属スベキ者ニ於テ候假令ハ当校ニ
於テ生徒募集ナル者アリテ前年十二月中貢者ノ
管轄府県庁徴兵連名簿取調之節ハ未願
備生ニシテ免役ニ属スベキノ科ニ不在且勝議問ヲ
経専門学科ニ登昇級本年四月徴兵編制之節
ニ至リテハ現ニ免役ニ属スヘキ部分ニ相成居者有之
右等ハ如何様ノ処分ニ可相成哉徴兵令条
参考トモ判然致兼候ニ付此段一應相伺候也

明治十年四月四日

東京医学校長代理
長与専斎

文部大輔田中不二麿殿

校長代理

庶務課
市川寛繁

本局八號四年ノ

案

学第七百號御書ヲ以テ新潟縣ヨリ医員雇入之件ニ渉リ當校見込御照會之趣致承知候右ハ目今於當校ノ人物心當無之ニ付此段御回答及ヒ候也

明治十年四月四日

東京医学校長代理

本省学務課長 御中

校長代理

庶務課

市川寛繁

第百八十五号

案

学位称号授与ノ儀御問合ニ付当校意見再三及照会ノ趣致承候右ニ付不日拙者参省直ニ備述可致ト存候此段及御回答候也

明治十年四月四日

東京医学校長代理

長與専斎

本省学務課長

御中

校長代理　　庶務課

市川寛繁

本日九指出ス　案

米国新約克州ローチェスタル府ニ在ルエッチ、プメロイ、ブルースタル氏ヨリノ依頼ニ付御照会之趣兼テ致シ在ル即チ当校蔵書別冊之通ニ有之候ニ付此段及御回答候也

明治十年四月六日

東京医学校長

本省
学務課長　御中

進テ器械目録書加入用ニ付テ御申越次第
取纏可差出候也

第百[illegible]六号

當校醫院病室規則別冊之通制定印刷致
度依此段至急相伺候也

明治十年三月十日

東京医学校長代理
長與専斎

文部大輔田中不二麿殿

伺之通

明治十年三月十二日

第五百五十五号

第四百八號

第百八號三號

徴兵令第三章第五條ニ掲ル所ノ文部ノ専門
学生徒並ニ豫備免役ニ属スヘキ者ニ於テ假令ハ
當校ニ於テ生徒募集ナル者アリテ其年十二月中
其者ノ管轄府縣廳徴兵使連名簿ヘ記載相成候處
未預備生ニシテ免役ニ属スヘキノ科ニ至ラス候後
試問ヲ経専門学科ニ昇級イタシ本年四月
徴兵編制ノ節ニ至リテハ既ニ免役ニ属スヘキ部
分ニ相成候者ニ有之候ハ如何様ノ御處分ニ
可相成哉徴兵令并参考トモ判然明文無
之ニ付此段一應相伺候也

明治十年四月四日

東京医学校長代理

長與専斎

第七百八十號

文部大輔田中不二麿殿

伺之趣各府縣於テ調査ノ上徴兵連名簿ヘ記載之者ハ十二月廿五日以後專門学科ヘ昇級候共免役不相成儀ト可心得候事

明治十年四月十二日

綜理心得

專齋殿

奥前小次官

本日指令

案

當部所轄[illegible]

[illegible]

明治十年四月十六日

東京大学医学部

本省 御中

綜理心得

用度課
庶務課
市川寛繁

第百廿五号

案

當部所轄別紙下臨之通道路測致度此段
上申候也

明治十年四月廿四日

東京大学医学部綜理心得
長與專斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理

庶務課

市川寛繁

第弐百四拾二号　案

拙者儀神奈川縣生徒當部ニ入学人員之儀
ニ付至急用談有之明後日神奈川縣ニ出張
即日帰京可致此段御届申上候也

明治十年五月三日

東京大学医学部綜理代理

長與專斎

文部大輔田中不二麿殿

総理代理　　　　　　庶務課

　　　　　　　　　　　市川寛繁

第百五十三号　案

当部教授ドクトル、シュルチエ氏并三等教授三宅

秀一両人十二日午後第二時三十分西京ヘ向致出

発候様御届申候也

明治十年五月十四日

　　　　東京大学医学部綜理代理

　　　　　長與專斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理　　庶務課

市川寛繁

第百七拾号　案

本省元所轄東京書籍館東京府ヘ御引渡
相成候ニ付テハ該館備書借覧之特許状当部
教授桑田衡平ヘ交付有之候処右ハ居置ニ付返進可
致且今後引續借用致度向ハ当部ヨリ直ニ
該府ヘ掛合可申旨御申越之趣致承知候即
チ特許状桑田衡平分共差添此段及返進候也

明治十年五月廿六日

東京大学医学部綜理代理

長與專斎

綜理代理

製薬局
博物局
庶務課
市川寛繁

弐百七號ノ二ノ

案

植物園規則編輯第十五條ニ付草案添當該意見ノ所照會之趣致承知候右ハ附箋之外別ニ意見無之候此段及御回答候也

明治十年五月廿九日

東京大学医学部綜理代理
長與專齋

東京大学法理文三学部綜理補
濱尾新殿

本省学務課長
辻新次殿

本部百八拾四号

植物園規則別紙草案之通編成致候ニ付テハ
医学部於テ別段ノ御異存無之哉此段為念
及御問合候条至急何分之御回答有之度
候也

明治十年五月廿二日

東京大学三学部綜理補
浜尾新

東京医学部綜理心得
長与専斎殿

右規則中医学部ニ於テ御意見有之處右
草案ノ通添筆ニテ差支無之候旦規則

第三條但書中学課用ニ備ヘシ為メ花卉ヲ採
折スル者ハ東京大学ヘ申出特許ノ証牌ヲ
受ケ云々トアリ此証牌ハ理学部ニ於テ渡リ候上
ハ通付可申置ニ付別紙従学部ニ於テ取調製
ニハ不及旨条状従者思申進置候也

小石川植物園来観規則

第壹條

小石川植物園ハ東京大學中理学部ノ專ラ管掌スル所ニシテ本学諸部及預備門生徒ノ植物学ヲ実地ニ研究スル所ナリト雖氏此規則ヲ遵守スル時ハ何人ニテモ来観スルヲ得ベシ

第貳條

東京大学及豫備門教員属員及生徒ハ勿論何人ニテモ来観ヲ望ムモノハ該園門衛ヨリ鑑札ヲ受ケ出門ノ節之ヲ還付スベシ

但シ車馬ニ乗シ或ハ狗ヲ率ヒテ園中ニ入ルヲ許サス

第三條

園中ノ花卉ハ漫ニ採折スルヲ禁ズ
但東京大学及豫備門教員及生徒植物学ニ従事スルモノニシテ学課用ニ備ヘント欲スル者ハ東京大学ヘ申出其特許ノ証牌ヲ受ケ植物園係ノ允許ヲ経テ採折セルハ此限ニアラズ

第四條
来観ノ時間ハ午前九時ヨリ午後四時マテトス
但特許ノ証牌ヲ携持スル者ハ此限ニアラズ

第五條
園中及ヒ休息所ニ於テ飲酒ヲ禁ス

明治十年五月

東京大学

綜理代理
庶務課
市川寛繁

第四百八號四号

案

植物園規則之義ニ付尚又第一条及四条加除致シ候所更ニ加除會議之趣致承知候右ハ別ニ意見無之候此段及御回答候也

明治十年六月五日

東京大学医学部綜理代理
長與専斎

東京大学三学部綜理
加藤弘之殿

追テ別紙草案壱葉返進致候也

未第弐百号

植物園来観規則草案ヲ以テ更ニ可差出問合
申候處右中理学部ノ三字ヲ削ルノ外ハ別ニ
異見無之旨同園ヨリ申出候ニ付該字ハ来示ニ随ヒ削
去可致候就テハ第一条及第四条但書中御加
増相成候廉ハ当否ニ付更ニ別紙草案本条
尚貴部ノ御意見兼テ致承知度且従前之回答ニ於
条至急何分之御回報有之度候也

明治十年五月三十日

東京大学法理文三学部綜理

加藤弘之

東京大学医学部綜理心得

長與専斎殿

當部生徒留岡光字外壱名医学部病院ニ入院
致居申候ニ付テハ右薬餌料ハ本規則モ有之候得
トモ一度ニ御回金致シ候テハ御互ニ煩冗ニ相渉候間
月末一回ツヽ一ヶ月分宛御渡シ相成候様致度
此段及御照会候也

明治十年五月三十一日

東京大学三学部

東京大学医学部
御中

綜理代理

庶務課
市川寛繁

第四百九拾号
案

當部教授ドクトル、シュルチエ氏三宅秀西京出
張ノ處本月五日午後第一時帰京致シ候
此段上申候也

明治十年六月六日

東京大学医学部綜理代理
長與專斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理　　　　庶務課
　　　　　　　　眞舘小次郎

第貳百九拾八号

案

去月廿九日學第千九拾壱号ヲ以テプラク府ノイスタット蜜蜂雑誌編集者リウドルフ、モーエルヘッフエル氏ヨリ蜜蜂大博覧会開設ニ付學校用掲図ニ適ケル蜜蜂器械及諸具ニ類スル其他該社ヨリ請求ノ日本蜜蜂書類採集シ送ラル可キモノ取纏メ廻送方ニ付当部ニ於テ自然右書類物品有之候ハヽ回ニ可申候照会ニ及候義ニ候右ハ両條共無之ニ付其段回答

候也

明治十年六月十三日

東京大学医学部綜理代理

長與專斎

本省学務課長

辻新次殿

綜理代理　　庶務課

市川寛繁

第三百拾号

案

当部教則規則等入用ニ付先般指部ヨリ御回送方申上候

致承知候即チ別紙之通御回送申候尤教則ハ

於今省ニ未定ニ致候間騰写之上差上候通

学生規則ハ印刷ニ余巳ニ欠乏且不日便宜ニ立

改正可致ノ処有之ニ付先ツ有合丈ケ御回送申

候也

明治十年六月廿一日

東京大学医学部

本省学務課長御中

記

一　学科課程表　壱冊

一　通学生規則　壱冊

一　製薬学通学生規則　八部

一　通学生概則　拾部

一　病室規則　拾部

右之通リ有之候也

綜理代理　庶務課

市川寛繁

第三百八號

案

例月第三月曜日昌平館ニ集会之儀当部教授之向モ本年ヨリ通学生教授ノ都合有之一同出席難致候ニ付此段及御断候也

明治十年六月廿一日

東京大学医学部

本省

御中

綜理代理　　庶務課

眞與藤小次郎

第三百六拾号

案

當部去ル七月三十一日調職員内外教員傭員別表之通取調此段上申候也

明治十年八月三日

東京大學醫學部綜理代理

長與專齋

文部大輔代理

文部少輔神田孝平殿

綜理代理　　庶務課
市川寛繁

第三百七拾四号　案

内国勧業博覧会出品物之内貴品ニアラサル
品ハ不貴品之札可附置旨観之ニ付当部出品
物中之者有之候処東京部ヨリ本年開会之節
依頼会之趣致兼候ニ付右之譯ヲ東京部ヘ致之
差支無之候ハヽ其段御回答有之度也

明治十年八月廿日
東京大学医学部

本省学務課長
御中

内国勧業博覧会出品物之内売品ニアラサル品ヘハ
非売品之札付置候処観ニ付当学部出品
物並ニ右為ニ莭売却出来兼差支無之
ニ付右有無至急可差成被成下度此段及御照会
候也

明治十年八月十九日

文部省学務課長

東京大学医学部綜理
御中

追テ出品陳列之分売却之約束ヲ致シ候トモ
開場中ハ売却候札ヲ付置閉場後携帯

可致視察ニ付為念此段申添候也

綜理代理

庶務課

奥藤小次郎

第三百九拾弐号

稟

当部去ル八月三十一日迄職員内外教員現員別表之通有之候此段上申候也

明治十年九月八日

東京大学医学部綜理代理

長與専斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理

庶務課

市川寛繁

第四百拾四号

案

学第千百九拾八号ヲ以テ当部製薬学生
徒拾壱名去ル七月一日ヨリ内務省ニ於テ学資ヲ
給与ニ致シ候間申出候處右給約之顛末書並ニ
生徒與舎之趣致兼書取別紙之通致候
物此段及上申候也

明治十年九月廿日

東京大学医学部綜理代理

長與専斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理

庶務課

市川寛繁

案

當部九年一月ヨリ十二月ニ至ル九年報別冊之

通有之候此段上申候也

明治十年九月

東京大学医学部綜理代理

長與專斎

文部大輔田中不二麿殿

綜理代理　　庶務課

市川寛繁

第四百拾六号

案

内務省内局大書記官松田道之ヨリ虎列剌病治療法取調之儀依頼申越候ニ付当部外国教授ト該法方質問之上至急一而申出為候処会ニ致談兼知候右之次第ニ内科教授ドクトル、ベルツ氏ト談依頼因今在回中ニ有之本日中ニハ出来可申候由ニ付テハ一通長官ヨリ独文ノ依頼出候邊ニ為来ニ致被下候様此段及御照会候也

明治十年九月廿日

東京大学医学部

本省学務課長　御中

追テ預防法ニ於キモ同氏取調追々在之候共内務省衛生局布達ニ法ト大同小異ニ付猶ク聞キ追日差出可申ト存候事

綜理代理

庶務課　市川寛繁

第四百弐拾号

案

内務省ヨリ依頼有之候虎列刺病治療法當部内科教授ドクトル、ベルツ氏取調候分別紙之冊差出候也

明治十年九月廿二日　東京大学医学部

本省
学務課長　御中

追テ差急キ候儀ニ付内務省ヘ之明廿一日午後

右通り廻置候事

綜理代理

庶務課

第四百四拾壱号

案

第四百九拾壱号ヲ以テ虎列剌病流行ニ付當校
施薬ノ儀意薬品圖説下申出候處依頼之趣致
兼知候即チ四百包及小冊子進呈致候條御落掌
有之度候也

明治十年十月五日　東京大学医学部

宮城師範学校
御中

追テ代價ハ御申越ニ不及且該薬之類ハ劇剤ニ付

下利無之場合ハ決テ服薬不致様用法ニ不違
様御注意有之度此段照会候也

総理代理　　庶務課
　　　　　　市川寛繁

第四百四拾九号
本省学務課長　案　東京大学医学部綜理
　　　　　御中

学第弐千拾弐号ヲ以テ体操術之儀ハ学科
上欠クヘカラサル件ニ付兼テ向キ該術ニ老練セル学士
一員海外ヨリ本省ニ招致シ大中小学校ホヘ輪
次順臨為致度ニ付当部意見御照会之趣致
承知候右ハ学科上必須不可欠モノニ付御招
聘相成候方可然ト存候此段及御回答候也

明治十年十月

綜理代理　　庶務課

市川寛繁

第百七拾四号　案

東京大学医学部綜理代理

文部大輔田中不二麿殿　長與專斎

当部医院ニ医ノ称有之候処自今当直医ト

相称申度此段申上候也

明治十年十月十二日

綜理代理

教官
庶務課

當局ハ指令済ノ

案

昨廿三日當局標第一號ヲ以テ御問合有之候處十二款医用機具ニ候其[?]譯テ實地ニ施スベキ必用ノ品ニテ治療器械ト云フ可ク又教場ニ於テ医学講義中其作用ヲ教フル者ハ即チ医学教育ノ具ト稱スベク因テ治療教育並用ノ具ニ有之候條[?]此段申進候也

明治十年十月廿四日

東京大学医学部

本省学務課御中

追テ右書面及御返却候也

総理代理

庶務課　市川寛繁

第四百八拾四号　案

東京大学医学部総理代理　長與専斎

本省会計課長
辻新次殿

本省於テ平常需用ニ供シ候井水之儀飲料ニ適不適試験可致旨御依頼之趣致承知即チ試験致候処別紙之通リ飲料ニ不適之旨ニ有之候此段及御回答候也

明治十年十月廿六日

追テ空瓶壱箇返進致候也

（一）沃化亜鉛澱粉溶液ニ逢フテ忽チ甚タシキ碧色ヲ呈ス著ルシキ亜硝酸ヲ含有スル徴トス

（二）子ツスレル氏試薬ニ逢フテ黄赤色ヲ呈ス然レドモ沈澱ヲ生スルニハ至ラズ小量ノアンモニヤヲ含有スルノ徴トス

（三）過満俺酸加里ノ稀溶液ヲ脱色セス又アンモニヤ性銀液ヲ還元セサレドモ其多量ヲ蒸発シテ液量ノ減却スルニ至レバ漸ク微褐色ヲ呈シ不快ノ臭ヲ覚ヘ全ク乾燥スルニ至ル之ヲ熱灼スレバ其残渣稍炭化シテ黒色ヲ呈ス少量ノ有機物ヲ含有スルノ徴トス

此水ハ硬度モ非常ニ高カラズ（石灰ノ量少ナキヲ云フ）其他ノ無機成分コロール硫酸并燐塩類ヲ含ムコト多カラサ

ルモ以上三条ノ不適アルニ因ルトキハ決シテ飲料水ニ供ス可ラサルモノトス

経理代理　営繕掛
庶務課
市川寛繁

五百八拾九号

本省会計課長　東京大学医学部
辻新次殿　長與専斎

案

当部第三学部教師館番号之儀同名称之者有之不便少勘候ニ付三学部ト協議之上右定同名称之者無之様可致旨御照会之趣致承諾兼而候即チ同部ト協議之末別紙之通相定申候此段及御回答候也

明治十年十月廿九日

通テ本郷森川町教師館ニ第支三学部より
[illegible]存[illegible]事

無縁坂上教師館

九番　三学部教授　ナウヌン氏

十番　医学部教授　コルシユルト氏

十一番　三学部教授　マンジヨウ氏

十二番　医学部教授　ベルツ氏

十三番　仝　シユルチエ氏

十四番　仝　ランガルト氏

十五番　仝　シエンケル氏

上野公園地内四軒寺町

壱番　マルチン氏

弐番　ギールケ氏

三番　マイエット氏

四番　チーゲル氏

五番　ランゲ氏

右之通ニ有之候也

綜理代理

庶務課

市川寛繁

第四百九拾七号

本省

御中

東京医学部

当部薬科生徒熊本縣士族田村子明儀醫観局ニ於テ採用致度ニ付当部教員ヘ差支有無御照会之趣致承知候右者去十月三十一日依願退学申付候ニ付別ニ差支無之候此段及御回答候也

明治十年十二月一日

綜理代理　庶務課

市川寛繁

第五百号

本省会計課長　案

東京大学医学部綜理代理

辻新次殿　長與専斎

本省充用ノ井水再應試験之儀御依頼之趣

致承知即チ試験之處別表之通ニ有之

候条試験ヲ以テ逓送ニ及ヒ候試験料ニ要ス

支金ハ移牒及御回送可致也

明治十年十二月二日

実験表一箇送達也

（一）ネッスレル氏ノ試薬ニ逢フテ黄褐色ヲ呈セズアンモニアキヲ含有セサルノ徴ナリ

（二）沃化亜鉛澱粉溶液ニ逢フテ僅微ノ碧色ヲ呈スルノミ亜硝酸ヲ含有セズ又ハ極テ僅微ノ量ノミヲ有スルノ徴ナリ

（三）徐々ニ之ヲ蒸発シテ且乾燥スルニ至レバ僅少ノ炭化ヲ現ハス少量ノ有機質ヲ含有スルノ徴ナリ

（四）硝酸銀カラズコロール硫酸等ノ諸塩ヲ含有スル極メテ僅少ナリ

以上ノ諸徴ニ因ルトキハ前ニ試験シタル水ヨリモ良好ノ品ニ属ス然レドモ少量ノ有機物ヲ含有スルノ徴アルユヘニ砂及ビ木炭末ヲ以テ濾過シテ後飲料水ニ供

第五百五十号

綜理代理　庶務課

市川寛繁

案

文部大輔田中不二麿殿

東京大学医学部綜理代　長與專斎

當部去明治九年十二月ヨリ本年五月ニ至ル
綜理教員生徒医員吏員共現員別表之通ニ有
之候條此上申候也

明治十年十一月

総理

用度課

庶務課

市川寛繁

案

第五百卅七号

文部大輔田中不二麿殿

東京大学医学部綜理 池田謙斎

右者儀去ル二月来
行幸供奉并征軍中綜理心得長与専斎ヘ申付
代理為致候処此度用相済候ニ付代理致解任候
此段上申候也

明治十年十月二日

綜理　　　　庶務課
　　　　　　市川寛繁

案

第五百拾九号

文部大輔田中不二麿殿

東京大学医学部綜理　池田謙斎

過般御用ニ依リ大坂表ヘ出張致居候当部教授及本科生徒小池正直昨八日致帰京候此段上申候也

明治十年十二月九日

綜理

第五百弐拾六号

用度課

庶務課

市川寛繁

案

本省学務課長

九鬼隆一殿

東京大学医学部綜理

池田謙斎

本科第三級生

清水郁太郎

右者先般助教弐名同級生弐拾名大坂ニ出張之命致候節本人義モ出張可致命之処病中ニテ右者ニ後レ出発先生徒発程之御同人帰京致シ下宿致同時大坂表ヘ出張為致申候右之訳ニ候得者ニ付ニハ

候得共人数多ノ要シ候秋ニ付陸軍省ニ於テモ一同
御用意且翻訳一般御差支候ニ付テハ外生徒因様費
且外共別段御送交有之度此段照会ニ及候
度及御依頼候也

明治十年十二月十三日

総理

庶務課
市川寛繁

案

第五百六号

文部大輔田中不二麿殿

東京大学医学部綜理
池田謙斎

当部去十一月三十日迄職員内外教員現員別紙
之通有之候ニ付此段上申候也

明治十年十二月三日

第五百七拾四号

綜理

本部定額金ニ係ハ明治五六年以来凡金拾七萬
圓内外ニテ現ニ今日拾萬八千百弐拾九圓ニ減ニ當ス
就レテ當学教員進ノ景況ヲ畧述ハ明治七最前
明治五六年ニ係ハ生徒ノ員数大凡三百員ヲ限
トナシ唯正則ニ一面本科豫科而已ニ有テ外ニ変更
後明治六年六月製薬学教場ヲ開キ又八年五
月新タニ医学通学生教場ヲ設置シ又本年三
月外国語学校ヨリ下等語学生若干名ヲ引並
之ヲ預備生トシ其他製薬学ノ通学ヲ開クニ至
未一期毎ニ入学ノ者ヲ増シ現今正則通学トモ
総計千弐百名餘ノ多キニ至レリ之ヲ前ノ三百名ニ

比校従前ニ比スレハ殆ント三倍ノ増加ナリ 本校ノ費額ヲ推算スルニ五六年ヲ平均シテ凡三百名ノ生徒ニシテ毎年各一ヶ月三拾余円ヲ費シタルニ今日ニ至テハ一ヶ月三人ニ付七条五拾銭内外ノ割合トナレリ 生徒之増加スル又随テ診察器械和教官ノ増員等ヲ要シテ教場費用ノ如キモ亦自ラ校舉ニ不遑目支レ申処ノ新薬ノ如キ大半ハ別途ニ由テ支弁スルモ何レモ是迄支レカ為メ又病者ノ臨時費ヲ仮令ハ新薬ニ付貝数ケノ備用候成之候者ノ家作ニ装置ノ付具等新規西洋作ニ模特ニ随テ是迄ニ於テ不用ニ属シ新タニ製造スル事ニ類 不少 ザルヲ不得能ハス是迄之カ為メ一ニ増額ヲ不仰然テ校中之事カメテ節倹ヲ省キ不急ヲ後ニシ漸ク今日ニ至リ然ルニ今也医学生ノ課程早已ニ第六級ニ進ミ既ニ本朝ヨリ臨床講義ニ科アリ殊ルニ該科ハ結尾ノ要科ニシテ臨床講説スル所ノ論説ヲ実施ノ病症ニ照シテ教授スル患者ヲ以テ教授ノ具ニ供ス是等ニ付新タニ結構ノ病院ヲ

設ケ其庭ニ病室（内外料各百名位）ヲ蒐集致シ不申然テハ完全ニ講義ヲ授ニカタク殊ニ変者久ク新薬保健ノ費用ニ亦少ナカラサル金額ヲ要シ其上ニモ当部ノ力ニ難及病秋ニ至テハ国家医学生ニ差迫来意外ニ於殊ニ当今ノ是迄毎朝六拾名宛募集ニ要セ然人モ或ハ百名余ノ多キニ至リ去迚有限ノ教場ヲ以テ無限ノ需ニ応シ難ク往々ニ変シ迚モ当地而已ニテ難行届ハ顕然ニ付今般更ニ大坂府設立ノ医学校ニ当部当部ノ教員ヲ派出シ当部支校ノ名義ヲ以テ同府近傍ノ諸県并九州表ノ生徒ヲ蒐集致ス致度候得ハ一ツハ天下一般医学志願ノモノニ普ク其志ヲ達スルノ便宜ヲ与ヘ一ツハ多数ノ医師ヲ速成シテ今日地方一般ノ急需ニ応スルヲ得ント

大学医学部ノ名実相立可申ト存候も従テ右
附属病院ニ於テモ之ニ付学校其他ノ費用ハ区分ト
大蔵省ト協議ヲ遂ケ同省ノ費用ニ可為候見込
ニ有之候共目今ニ於テ教員ノ月給器械等ハ本部ノ
失費ニ候得共見込ニ有之候ニ付同右両条新創ニ付
論別途ニ御交付相成候様致度依テ兼テ定額金増額相
成候共別紙之通取調相伺候別ニ御詮議被成下
至急御允可相成度候也

明治十年十二月七日

池田謙斎 印

文部大輔田中不二麿殿

常額増額其他費金見込仕訳書

一金三万六百九拾六円　常費

内訳

金弐万三千三百七拾六円　常費増額

内

金壱万八千円
是ハきりニしき患者内外科合百名ツヽ入院見込但一日壱名薬餌料金弐拾五銭ツヽ一ケ年分

金七百弐拾円
是ハ看病人弐拾人雇見込但患者拾人ニ付壱人ノ割一ケ月壱人金三円ツヽ同断

金貳百拾六円
是ハ小使四人雇見込但壱人一ヶ月金四円五拾戔ツヽ同断

金三百六拾円
是ハ薬局調剤生三人雇見込但壱人月給金拾円ツヽ同断

金貳千八百八拾円
是ハ醫員六名見込但壱人月給金四拾円ツヽ同断

金千貳百円
是ハ繃帯木綿始治療用品代并薪炭諸入費但一ヶ月金百円積

金七千三百貳拾円　大坂支病院費

内

金六千七百貳拾円
是ハ教官拾四名見込但壱名月給金四拾円ツヽ一ヶ年分

金六百円
是ハ書籍器械其他諸雑費一ヶ月金五拾円積

一金七千九百拾三円　臨時別途入費

内譯

金六千六百拾五円
是ハ下等病院新築費用但二階建貳百四拾五坪壱坪金貳拾七円積

金貳百五拾円
是ハ臥床貳百個買上代但壱個金壱円貳拾五戔積

金貳百円
是ハ三布蒲團貳百個買上代但壱個金壱円積

金五百円
是ハ四布蒲團四百個買上代金壱個金壱円貳拾五戔積

金三百四拾八円
是ハ廊下七拾間敷物并ランプ行燈浴
桶手桶火鉢炭トリ等其外諸雑品代

右之通有之候也

明治十年十二月

徐理　　庶務課

第五百七拾弐号　　市川寛繁

案

東京府ヨリ當部生徒山口縣士族杉山武三ヘ
尋問之儀有之ニ付更ニ右本人ヘ可相達旨申越之趣
致承知候即チ本人ヘ相達置申候此段及御回
答候也

明治十年十二月六日

東京大学医学部

本省学務課長　御中

綜理

庶務課

市川寛繁

案

先般試験濟ノ医学部生徒卒業証書授與式来ル十九日午後第一時執行相成候ニ付当日医学部日本教授及助教諭臨席可致旨通知有之ニ付凡何名出席相成候哉云〻御照会之趣致承知候於右者綜理始メ教授助教諭共十九名出席可致於此段及御回答候也

明治十年十二月十四日

東京大学医学部

庶務課

東京大学三学部
用度係
御中

綜理　　　庶務課
　　　　　市川寛繁

第五百八拾六号
東京大学三学部　案
　　　御中　　　　東京大学医学部

来ル十九日化学生徒卒業証書授与式ニ付御当
部ヨリ臨場可致日本教授及助教ノ人員貴学
部局ニ被掛ヨリ御問合相成候処綜理始メ十九名
ニ有之候処右者式場狭隘ニテ多人数入リカタク候
ニ付日本教授及助教ノ内嘱任ニテ文部省職員
録ニ記載有之候人名ノミ臨場被相成候様御申越之趣

致兼知候右之外九名別紙之通ニテ渾テ文部省
職員録ニ登記可相成候條右ニ者ニ有之候尤式場
接続ニ於テ何名臨場致シ可然哉ニ至申越有之段
此段及回答旁及御照會候也

明治十年十二月

綜理
池田謙斎

同心得
長與専斎

教授
三宅秀
桐原真節
樫村清徳
田口和美
大澤謙二
柴田承桂

助教
橘直佺

べキ教員ノ学士無之ヲ育成致シ来リ候処然ルニ学業ハ宗ノ少主
意ニ付未タ適セス申候且人民社会ノ責ハ聊カモ助ケ克
ハズ本部ニ於テハ如何ニモ難黙止事情ニ付尚合速成ヲ
要スル所ノ生徒ヲ募集スルハ緊急不得止一時ノ権
道ニ有之候尤右ニ付別ニ意見モ有之候得共右ハ姑ク
閣キ其費用財政困難ノ際ナレバ如何ニモ無余儀事ニ
有之候ニ付テハ大坂府ヨリ支校ノ名義モ有之東京ニ随ヒ教
員派遣有之事ニ致シ其費何出ノ高ヨリ常費
ノ分凡三分ノ一臨時費ノ分凡四分ノ一ヲ減シ別紙
ノ通リ府ヨリ其出ニ申候テハ同面ヲ以テ実際
ニ充テ未実合セ兼候得共判然可致候得共
極テ減殺候ニ付其実地ニ至テハ同面ヨリ無之
等ニ候モノ多分可有之筈ト存候依テハ乃一枚上

此儀當省未成候テハ最早進モ施行難行理ニ付
篤ト御勘量ニ相成御取計有之度此段及回答
候也

明治十年十二月廿六日

東京大学医学部綜理
池田謙斎

文部省学務課長
九鬼隆一殿

追テ大坂府ヘ教員派出之儀ハ未タ裁可有之候以同府
知事ヨリ本省ヘ依頼ニ致候儀ト存候得共御申添候也

常費増額其他臨時費見込仕譯書

一金貳萬千三百七拾六円　常費

内譯

金壱萬七千四百拾六円　病院常費

内

金壱萬三千五百円

是ハキリニーキ患者内外科各七拾五名宛入院見込但一日壱名薬餌料金貳拾五銭ツヽ一ケ年分

一同五百貳拾円

是ハ看病人拾五人雇見込但患者拾人ニ付壱人ノ割一ケ月壱人金三円ツヽ

一同断

同貳百拾六円
是ハ小使四人雇見込但壱人一ヶ月金四円五拾戔ツヽ同断

同三百六拾円
是ハ薬局調剤生三人雇見込但壱人月給金拾円宛同断

同千九百貳拾円
是ハ医員四名見込但壱人月給金四拾円宛同断

同九百円
是ハ繃帯木綿始治療用品代并薪炭諸入費但一ヶ月金七拾六円積

一金三千九百六拾円　大坂派出教員

内

金三千三百六拾円
是ハ教官七人見込但壱名月給金四拾円宛一ヶ年分

同六百円
是ハ書籍器械具他雜費一ヶ月金五拾円積

一金五千九百七拾三円七拾五戔　臨時別途入費

内譯

金四千九百六拾壱円貳拾五戔
是ハ下等病院新築費用但二階建百八拾三坪七合五勺壱坪ニ付貳拾七円積

同百八拾七円五拾戔
是ハ臥床百五拾脚但壱脚金壱円貳拾五戔積

同百五拾円
是ハ三布蒲團百五拾枚代但壱枚ニ付金壱円積

同三百七拾五円
是ハ四布蒲團三百枚代但壱枚ニ付金壱円貳拾五戔積

同三百円
是ハ御下敷物并ランプ行燈油桶火鉢炭斗等諸雑費代

右之通候也

第二千六百拾四號

貴学部医学生教授ノ資料トシテ縦覧病院ヲ
新設シ之ニ適応スル患者ヲ内外無料百名ヲ募集シ
且貴学部支校ノ名義ヲ以テ大阪府医学校ト
教員派遣等ノ件ニ付補助金増額臨時費交
付等申請有之右ハ実際難止情状ニ有之候ニ付
従来東京政府ニ於テ大学ヲ設立スルノ主旨ハ畢竟
完全ノ学士ヲ育成シテ学術ノ種子ヲ播シ之カ淵
源ヲ開キ以テ世ニ標準ヲ示スノ事業ニ於テ従ハ彼ノ
多数ノ医師ヲ速成シ目下ノ急需ニ応セシムル等
ノ権宜ハ之ヲ各府県ニ委子来リ而シテ貴学
部医学生徒ノ速成ヲ要スルノ挙殆テ現在ノ人員
ヨリ増加セシメ於テハ医員教授モ亦増加シ之目今

財政困難ノ際文部省定額ノ内外ヲ問ハス到底
三萬圓ノ増額有之支出出来兼候ニ於テハ存候付テハ
通学生ニ限リ合テ給費患者二百名ヲ罷メ候件モ
多少ノ減殺有之候得共又大阪府医学校ト申等教
員若干ヲ派遣候得ハ是亦実際難止情状有之
候得共右ハ前述ノ主旨ニ由リ候得ハ中央政府ノ
着手稍過点ニ渉リ候而已ナラス現下一地方ニ之ヲ壊
学校ヲ設立スルノ挙ハ其地方ニ於テ種々ノ弊害有
之候間当器等ハ支出シ難ク当医学部支校ニ於テ
モ無見合セ只大坂ト既設ノ学校ヘ向ケ幾分カ補助
ニ及ヒ以テ上等ノ教員附シ派遣候位ノ趣向ニ
無振替ニテ事務ヲシテ大坂府ヘ申立シ於テ合ニ寄リ候得共
方可有之因テハ増額無見込ニ付補助金兼給附
費其外事務ノ精々減省ヲ加ヘ更ニ取調可申候此段
得貴意候也

明治十年十二月廿一日

文部省学務課長
九鬼隆一

東京大学医学部綜理
御中

綜理　庶務課　市川寛繁

第六百拾七号　案

文部大輔代理

文部少輔神田孝平殿　東京大学医学部綜理心得　長与専斎

拙者儀内務省御用ニ因リ来一月二日発程兵庫縣及大坂司薬場ヘ出張致シ候段御届申上候也

明治十年十二月廿八日

小生儀兵庫縣及大坂司薬場ヘ出張被仰付
来一月二日ノ郵便船ニテ發艤致候ニ付御催促致候テハ
文部省ヘ上申ノ上在留向キ可然御取計被下度右
御届旁知寄度候依頼候也

衛生局長

十年十二月廿七日　長與専斎

東京大学医学部
庶務係
御中